

思いやりの心 助け合いの心  
いたわりの心 支え合いの心

【発行】福岡県退職公務員連盟 会長：稲田 瑞穂  
事務局長：中葉 允雄 〒811-4227 遠賀郡岡垣町高陽台 1-20-14  
TEL / FAX : 093-282-5682

【編集・制作】株式会社ニチコミ 福岡市博多区博多駅東 1-13-6 竹山博多ビル 7F TEL : 092-292-6538

## 令和元年度福岡県退職公務員連盟 県大会開催

# 年金について学び直そう



会長あいさつ



表彰を受けられた皆さん



講師の有江康章氏

令和元年度の福岡県退職公務員連盟の県大会は10月3日(木)に開催を予定していましたが、台風15号の接近のため10月17日(木)に延期して実施されました。

当日は、会場の天神センタービル4階に各支部長など80名が集い、中葉事務局長の司会のもと式典が行われ、日公連をはじめ、九州各県連、国会議員の井上貴博氏、鬼木誠氏、古賀篤氏、三原朝彦氏の祝詞が披露されました。また来賓として国会議員の方々の代理である4名の秘書の方や退職中

学校長会長、私学共済年金者連盟理事にもご臨席いただき、ご祝辞をいただきました。

続いて稲田会長のあいさつでは、令和の新しい幕開けとともに福岡県退職公務員連盟のさらなる発展を誓う力強いお言葉をはじめ、光澤なほみ理事、八木治海理事の退任、田川支部の藤崎嘉文事務局長が今年度より理事に就任されたことが報告されました。

次に表彰式が行われ、支部役員を10年以上務められた方へ功労表彰、長年支部の活動に尽力された方へ永年貢献表彰が計74名の方々に贈られました。さらに白寿者表彰者8名と、日本退職公務員連盟の全国大会に参加する5名の方の紹介もありました。

講演では、稲田会長より「これからの年金」と題し、財政検証について、また年金に関する学習を常に行うことの重要性についてお話いただきました。



大好評！日向ひよつとご踊り



また今回の特別講演は、「これからの年金」と題し、財政検証について、また年金に関する学習を常に行うことの重要性についてお話いただきました。

今大会の締めくくりは、筑紫北支部の八藤丸さん一同による「日向ひよつとご踊り」が披露され、約20名の男女によるユーモアあふれる特徴的な踊りで会場を沸かせました。

最後は参加者全員で一緒に「なつめ」の絆を強めつつ笑顔あふれる有意義な県大会となりました。

全支部には、年金学習の資料を送っていますので活用下さい。後日、DVD作成予定。

《支部活動紹介》

遠賀・中間支部

支部の仲間づくりと組織の充実を求めて

遠賀・中間支部

支部長 垂水 隆



平成29年度から支部長をしております垂水です。目標としているのは、退公連の会員相互の親睦を図り、新しい会員の加入促進を図ることです。これらの

活動を会員の協力のもとで進めています。

支部総会の後、会員の親睦会を行い、その中で研修やレクリエーションなどを行っています。年度末の3月に役員会を実施します。

その中で、退職予定者の名簿を持ち寄り、新会員に誰が加入を勧めるかなどを



決め、会報や総会の案内などを配布し、退公連の意義や活動を知らせながら、勧誘をしています。おかげで、毎年加入者があり、本部より会員増について表彰をいただきました。総会の時には、そつめんなどの販売を通して売上をあげ、会費への補填をし会の充実を図っています。また、お祝いをして

苦悩するわが支部

小郡・三井支部

支部長 帆足 徳男

小郡・三井支部



今わが支部は、瀕死の状態に陥っている。

新会員がなかなか加入せず、高齢化や病気による脱会と病死による減員等で日々悩んでいる。役員等の努力不足もあるが、入会の説明をやっても皆さんあまり興味や関心を示してくれず入会後のメリットや魅力を感じてもらえない。苦悩しながらも地道に次の取り組みを行っている。

①年2回の親睦会実施(参加者は少ないが)。



②年2回の「支部だより」の発行(日公連や支部の活動報告ならびに会員の近況、加入促進等を掲載)。

③校区代表者(支部内16校区のうち5名の代表者+監事)6名で年3〜4回の役員会を実施し、活動内容と方法の確認、情報交換、加入促進等について協議を行っている。

成果はいまいちだが頑張るしかない。地区交流会で得た情報を生かすように努力しているが、支部の歴史と地域情勢が異なるのでなかなか生かせきれないことが歯がゆい。

筑紫南支部

支部の活性化を目指して

筑紫南支部

支部長 菅 勉



平成30年5月に支部長に就任し2年目ですが、支部の現状を申し上げますと、会員数がこの5年間で半減し、現在約60名となっております。高齢化による逝去、健康不良による退会希望等が相次いだ結果です。

一方、新規会員はわずか10名程であり、努力不足を痛感しています。しかしながら、たとえ少数でも真に退公連の意義や重要性を理解する皆さんと目的達成に

向け前進してまいりたいと考えています。

当支部の第一の活動は、何と申しましても「勧誘活動の推進」です。支部長以下役員、班長が共通認識で後輩や地域の皆さんに声をかけを推進していただいています。第二は「署名活動の推進」です。「効果に疑問」との声もありますが、少ないながらも昨年は126名、本年は133名の署名を得ることができました。県連の重点目標である以上、当支部としてもさらに努力する決意ですので、よろしく願います。

田川市支部

「会員の声」新聞で広める

田川市支部

支部長 道 富雄



ものは何かを考えました。

田川市支部は、一昨年末で80歳代の班長が新聞配りをしていました。それを60歳代の班長に総入れ替えをし、今の会員が求めている101歳の高齢者を筆頭に

高齢化が進むなか、外に出て会員同士の交流を図ることは難しい状況です。そこでこちらから出向いて

今まで生きてきた足跡を聞き取る活動から始めることにしました。その結果、

# 全国研修会提出レポート

田川市支部 事務局長 藤崎 嘉丈

1日目は、全大会が行われ、会長のあいさつがありました。金融庁の「2千万円問題」があり、どういつ風に発言されるか注目していました。政府の見解と一緒に、期待外れでした。

年金保険料を支払ってもらっている。65歳以上で働いている方は、厚生年金保険料を払ってもらおうという場しのぎ的な内容でした。私は「年金問題の抜本的な解決方法は、少子化問題を解決することではないか」と質問したところ、まったくその通りだという答えが返ってきました。そのコメントに対して、一番悔しく思うのは、少子高齢化の問題は、50年前から言われていたことにも関わらず、なぜその問題を放置して今頃

になって慌てているのか。長期的な展望をもとに取り組めなかったのかということ。このことについては政府の問題だけではなく、国民自身も指摘できなかったことを反省しなければならぬのではないかと強く感じています。

今のセツパツマツタ状況に対し、超党派で国民も一緒に取組む、二度と同じ轍を踏まないようにするために、お互いが批判し合う暇はありません。現在の若者や次世代の子どもたちやひ孫などが困らないようにするのは、今の私たち大人の責任です。

2日目は「社会保障対策」の三分科会に分かれて行われました。私は組織拡大の分科会に参加しました。会員拡大の問題は、どの県でも大きな課題として挙げられていました。その中で、山形県や愛知県を取り組みでは、退公連と互助会の違いを丁寧に文章化して取り組んでいました。新会員の

私は、今まで「顔が見える退公連」を大切にしてきました。県の理事として、これから日公連と連携を取りながら、福岡県退職公務員連盟の充実に微力ではありますが尽くしていきます。今後とも、よろしくお願いいたします。



田川市支部 事務局長 藤崎 嘉丈

## 新理事紹介



### 糟屋支部 女性部長 東 紀子

私たち糟屋支部の女性会員はわずか31名で、全体の4分の1に満たない。平均年齢は83歳で男性より6歳程高い。7名の女性部委員は、仕事をしている人もいれば、いくつもの会の役職を兼ねている人、ボランティア活動で多忙な人などで、総会や年3回の班長・女性部委員会すら出席できない人もいます。従って女性部独自の活動は行っていない。

現在、組織拡大について、女性部のみならず全体の問題を抱えている。県職員等3名を除く会員すべてが、元教職員でしかも60代、70代は元管理職ばかりである。退公連発足の原点に立ち返る必要があるはしないか。管理職中心の会から、県民・市民のために真摯に務めたすべての公務員が入会しやすい門戸拡大などの手立てを真剣に工夫したい。



聞き取りをするなかで、産炭地田川の厳しい中でたくましく生きてきた子どもたちとの交流や宝物がいつばい出てきました。それを自前の新聞として配布をしたところ、それを読むのを心待ちにしてくれる会員も出てきました。そういう身近な会員の足跡を知ることで、お互い元氣になります。また外出できる会員は、今年は女性部が中心になって7月に料理教室を実施し、11月には花の寄せ植えを計画しています。今ある現実と向き合う中で「顔が見える田川市支部退公連」を目指していきます。

# 令和元年度 日本退職公務員連盟全国大会参加報告

鬼木議員へ陳情提出



国会議事堂前にて



## 5 名が議員に要望活動実施

10月31日(木)、令和元年度日本退職公務員連盟全国大会が、文京シビックホールにて開催されました。福岡県退公連からは、稲田会長を含む計5名が参加し、県選出議員の方々へ陳情を提出し要望活動を行いました。以下、参加者の皆さんの感想をご紹介します。

### 日公連全国大会の 講演を聞いて



西区支部長  
成清 光任

全国大会に出席し講演を拝聴した。演題は「高齢社会と年金のゆくえ」である。

講師は年金シニアプラン総合研究機構の特別研究員である元厚生省年金局課長の坂本純一先生で、データをもとに分かりやすく説明いただいた。まずG7諸国に比して日本

は、高齢化率の推移が早いというところ。また国内において非正規従業員割合が年々増加し、平成30年には37%を超えているとのこと。これらは何を意味しているのかというところ、年金支給額の減額につながる、定年制の延長が求められるということである。

さらに年金分野において、様々な改正や、社会保障制度改革国民会議が行われてきた。しかし財政面が追いついていない。公的年金制度の今後の展望として厳しい環境が続くが、羅針盤があるとのこと。

講演内容は私にとって難しかった。年金制度改革も難しかった。お互いがんばろう。

### 日公連、退公連の 存在意義を顕示する



直方支部  
松尾 光江

このたび令和元年度の日本退職公務員連盟全国大会に参加させて頂きました。

1日目の10月30日(水)は、東京ガーデンパレスに集合し、

懇親会に出席しました。

翌31日(木)は、9時に衆議院議員会館に到着し、社会保障制度についてや、その他支部会員の要望などを県選出の国会議員に訴え、具現化を願うことを伝える要望活動を行いました。

その後、昼食をとり、記念撮影をし、全国大会の会場である文京シビックホールに移動。13時30分から式典が開催され、全国大会の目的と日公連、退公連の存在意義を顕示するよい機会となりました。

### 年金財源安定のため 議員13名に要望活動



大牟田支部  
次郎丸 敏博

2日目の10月31日(木)は、朝食後、本県選出国会議員へ陳情するため、議員会館に向かいました。議員会館では、三原議員の秘書である中村正義氏の案内で衆議院第一と第二議員会館の与野党合わせて13名の議員事務所を訪問しました。稲田会長をはじめ参加者5名で分担して要望書を無事に手渡すことができました。

要望書の内容は「人事院勧告の尊重」「65歳定年制の早期実現」「高齢者の年金減額に頼らない社会保障費の財源確保」等を含めた5点です。議員さんからは「年金財源安定のためにも定年制の延長が必須」との考えを聞くことができ、「ぜひご支援、ご協力を」と力強く要請する場面もあり、大変充実した陳情活動になりました。

昼食後、地下鉄で移動して全国大会に参加しました。この会場まで案内していただきなどとても親身にご対応いただいた中村氏に心より感謝いたします。